

2023 年度 授業計画(シラバス)

学 科	看護学科	科 目 区 分	基礎分野	授業の方法	講義演習
科 目 名	情報科学	必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	16 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	2年生	学期及び曜時限	後期	教室名	PCルーム
担 当 教 員	BSC所属講師	実務経験と その関連資格	滋慶学園各専門学校にて、情報処理、情報科学の講師経験		

《授業科目における学習内容》

この授業では、学生がコンピュータ自体の操作の習熟をはかることはもちろん、ソフトウェア間の連携、コンピュータネットワーク環境の適切な利用ができることに重点を置いて実施する。これにより、在学中ならびに卒業後の情報処理スキルの向上を図る。

《成績評価の方法と基準》

課題・小テスト点100%

《使用教材(教科書)及び参考図書》

イーラーニングテキスト
 対面授業、オンライン(ライブ)、オンデマンドの3つの授業形態(ハイフレックス型授業)で、テキストや動画を見ながら学生が独学できるようデザインされた教材です。講義は基礎分野と応用分野に分類されています。

《授業外における学習方法》

自宅等にインターネットにつながったPCがあれば、イーラーニングで自習できます。
 欠席した場合は次の週までに課題を済ませて下さい。

《履修に当たっての留意点》

出席することが一番重要ですので、欠席しないように受講してください。

授業の方法	内 容		使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容
第1回 講義形式	授業を通じての到達目標	文書作成の基本的な操作ができる	Wordダイジェスト	イーラーニングテキストで講義の内容を確認することができます。
	各コマにおける授業予定	文書作成の基本的な流れ/ページ設定/文字の書式設定/図形・画像などの挿入/表の作成/ページ罫線		
第2回 講義形式	授業を通じての到達目標	スライド作成の基本的な操作ができる	PowerPointダイジェスト	イーラーニングテキストで講義の内容を確認しておくこと。
	各コマにおける授業予定	プレゼンテーションの作成手順/テーマとバリエーション/スライド/プレースホルダー/画像の挿入/テキストボックス/図形作成/ワードアート/画面切り替え効果の設定/アニメーション効果/ノートの作成/スライドショー		
第3回 講義形式	授業を通じての到達目標	企業や施設が求める表計算ソフトの操作ができる	Excel基礎1 基本操作	イーラーニングテキストで講義の内容を確認しておくこと。
	各コマにおける授業予定	オートフィル/数式の作成/SUM関数/グラフ作成/印刷		
第4回 講義形式	授業を通じての到達目標	関数を駆使した資料を作成できる	Excel基礎2 数式と関数基礎	イーラーニングテキストで講義の内容を確認しておくこと。
	各コマにおける授業予定	割合を求める/相対参照と絶対参照/AVERAGE関数/COUNTIF関数/シートの操作		
第5回 講義形式	授業を通じての到達目標	グラフを駆使した資料を作成できる	Excel基礎3 グラフ基礎	イーラーニングテキストで講義の内容を確認しておくこと。
	各コマにおける授業予定	目的に応じたグラフ作成/グラフのレイアウト/行や列の挿入/グラフの編集		

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	データの特徴を数値化できる（平均、分散、標準偏差）	初級データサイエンス(統計編)1	イーラーニングテキストで講義の内容を確認しておくこと。
		各コマにおける授業予定	平均と分散の意味と求め方/標準偏差の意味と求め方		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	データの特徴を視覚化できる1（基本統計量を求める、ヒストグラムの作成）	初級データサイエンス(統計編)2	イーラーニングテキストで講義の内容を確認しておくこと。
		各コマにおける授業予定	分析ツールの使用/基本統計量の算出/度数分布表(ヒストグラム)の作成/標準偏差のグラフ図示		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	データの特徴を視覚化できる2（散布図、相関係数を求める）	初級データサイエンス(統計編)3	イーラーニングテキストで講義の内容を確認しておくこと。
		各コマにおける授業予定	散布図を作成し、相関関係の有無を視覚的に表す/相関係数の算出		
第9回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第10回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第11回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第12回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第13回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第14回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第15回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			

2023 年度 授業計画(シラバス)

学 科	看護学科		科 目 区 分	専門基礎分野	授業の方法	講義
科 目 名	病態治療学VI		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	16 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	2年生		学期及び曜時限	前期	教室名	2年生教室
担 当 教 員	谷 康平	実務経験と その関連資格	Stanford大学大学院research fellow 社会医学環境衛生研究所所長など歴任			
《授業科目における学習内容》						
看護の対象である人間の機能障害の成り立ちを学び、その機能障害に対する治療を理解する。 病態治療学VIでは内分泌・代謝機能障害の病態と検査、治療について学習する。						
《成績評価の方法と基準》						
終講試験 100%						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
病態生理学(医学書院) 内分泌・代謝 (医学書院)						
《授業外における学習方法》						
解剖図を描き、その病態を理解する。 正常な臓器の機能の、どこがどのように障害される病気なのかを理解できるように学習する。その上で、症状、検査、治療の理解へと進むこと。						
《履修に当たっての留意点》						
機能別の病態治療学の講義前に解剖生理学を復習して講義に臨むこと。機能については系統的に理解していき、病態治療学の前に復習しておくこと						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	視床下部疾患について説明できる	テキスト	事前にテキストを読んでくる。友達同士で問題を出し合いながら学習する	
		各コマにおける授業予定	内分泌・代謝機能障害 視床下部疾患			
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	甲状腺疾患について説明できる	テキスト	事前にテキストを読んでくる。友達同士で問題を出し合いながら学習する	
		各コマにおける授業予定	内分泌・代謝機能障害 甲状腺疾患			
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	副甲状腺疾患について説明できる	テキスト	事前にテキストを読んでくる。友達同士で問題を出し合いながら学習する	
		各コマにおける授業予定	内分泌・代謝機能障害 副甲状腺疾患			
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	副腎疾患について説明できる	テキスト	事前にテキストを読んでくる。友達同士で問題を出し合いながら学習する	
		各コマにおける授業予定	内分泌・代謝機能障害 副腎疾患			
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	アルドステロン症、クッシング症候群について説明できる	テキスト	事前にテキストを読んでくる。友達同士で問題を出し合いながら学習する	
		各コマにおける授業予定	内分泌・代謝機能障害 アルドステロン症、クッシング症候群			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	糖尿病について説明できる	テキスト	事前にテキストを読んでもくる。友達同士で問題を出し合いながら学習する
		各コマにおける授業予定	内分泌・代謝機能障害 糖尿病		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	痛風、高脂血症について説明できる	テキスト	事前にテキストを読んでもくる。友達同士で問題を出し合いながら学習する
		各コマにおける授業予定	内分泌・代謝機能障害 痛風、高脂血症		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	内分泌・代謝機能障害の病態と検査、治療をまとめることができる	テキスト	事前にテキストを読んでもくる。友達同士で問題を出し合いながら学習する
		各コマにおける授業予定	まとめ、終講試験		
第9回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第10回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第11回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第12回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第13回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第14回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第15回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			

2023 年度 授業計画(シラバス)

学 科	看護学科		科 目 区 分	基礎分野	授業の方法	講義演習
科 目 名	カウンセリング理論と技法		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	16 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	2年生		学期及び曜時限	後期	教室名	2年教室
担 当 教 員	太田 早苗	実務経験と その関連資格	臨床心理士			
《授業科目における学習内容》						
カウンセリングの基本を学習し、学生間でロールプレイをしながらカウンセリングの技法を学ぶ。						
《成績評価の方法と基準》						
終講試験(80%) レポート(20%)						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
金子書房 カウンセリング演習						
《授業外における学習方法》						
授業中の演習を自宅で振り返り、気づきをまとめておく。						
《履修に当たっての留意点》						
学生間でのロールプレイなど積極的に参加してください。						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	カウンセリングの基本と技法を理解できる。	テキスト 配布プリント	テキストの該当箇所を読んでおく	
		各コマにおける授業予定	カウンセリングとは、カウンセリングの理論			
第2回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	自己理解を深め自己洞察できる	テキスト 配布プリント	テキストの該当箇所を読んでおく	
		各コマにおける授業予定	自己洞察とは、自己洞察の意義、自己洞察の実施			
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	カウンセラーの基本的態度を理解できる。	テキスト 配布プリント	テキストの該当箇所を読んでおく	
		各コマにおける授業予定	カウンセラーの基本的態度			
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	カウンセリングのワークを用いながら、演習を通じてかかわり技法を習得する	テキスト 配布プリント	演習に必要な項目を抽出しておく	
		各コマにおける授業予定	かかわり技法、応答技法、質問技法、			
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	カウンセリングのワークを用いながら、演習を通じて行動支援法を習得する	テキスト 配布プリント	演習に必要な項目を抽出しておく	
		各コマにおける授業予定	行動支援法			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	カウンセリングのワークを用いながら、演習を通じて交流分析を習得する	テキスト 配布プリント	演習に必要な項目を抽出しておく
		各コマにおける授業予定	交流分析①		
第7回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	カウンセリングのワークを用いながら、演習を通じてアサーショントレーニングを習得する	テキスト 配布プリント	演習に必要な項目を抽出しておく
		各コマにおける授業予定	アサーショントレーニング		
第8回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	まとめ	テキスト 配布プリント	演習に必要な項目を抽出しておく
		各コマにおける授業予定	今までの授業の振り返り、終講試験(50分)		
第9回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第10回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第11回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第12回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第13回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第14回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第15回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			

2023 年度 授業計画(シラバス)

学 科	看護学科		科 目 区 分	専門基礎分野	授業の方法	講義
科 目 名	病態治療学Ⅶ		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	16 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	2年生		学期及び曜時限	前期	教室名	2年教室
担 当 教 員	樋口 巧	実務経験と その関連資格	看護国家試験対策 講師			
《授業科目における学習内容》						
看護の対象である人間の機能障害の成り立ちを学び、その機能障害に対する治療を理解する。 病態治療学Ⅶでは生体防御機能障害の病態と検査、治療について学習する。						
《成績評価の方法と基準》						
終講試験						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
病理学(医学書院) 血液／アレルギー・膠原病／感染症 (メディカ出版)						
《授業外における学習方法》						
シラバスを確認しながら予習復習を行うこと。						
《履修に当たっての留意点》						
病態をイメージしながら理解してください。						
授業の 方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	アレルギー疾患の病態と検査・治療について説明できる	テキスト、プリント	事前にテキストを読んでくる。友達同士で問題を出し合いながら学習する。	
		各コマにおける授業予定	生体防御機能障害 アレルギー疾患の病態、検査と治療			
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	膠原病の病態と検査・治療について説明できる	テキスト、プリント	事前にテキストを読んでくる。友達同士で問題を出し合いながら学習する。	
		各コマにおける授業予定	生体防御機能障害 膠原病の病態、検査と治療			
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	感染症の病態と検査・治療について説明できる	テキスト、プリント	事前にテキストを読んでくる。友達同士で問題を出し合いながら学習する。	
		各コマにおける授業予定	生体防御機能障害 感染症の病態、検査と治療			
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	貧血の病態と検査・治療について説明できる	テキスト、プリント	事前にテキストを読んでくる。友達同士で問題を出し合いながら学習する。	
		各コマにおける授業予定	血液・造血器機能障害 貧血			
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	白血病、悪性リンパ腫の病態と検査・治療について説明できる	テキスト、プリント	事前にテキストを読んでくる。友達同士で問題を出し合いながら学習する。	
		各コマにおける授業予定	血液・造血器機能障害 白血病、悪性リンパ腫			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	血友病・紫斑病の病態と検査・治療について説明できる	テキスト、プリント	事前にテキストを読んでくる。友達同士で問題を出し合いながら学習する。
		各コマにおける授業予定	血液・造血器機能障害 血友病、紫斑病		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	DICの病態と検査・治療について説明できる	テキスト、プリント	事前にテキストを読んでくる。友達同士で問題を出し合いながら学習する。
		各コマにおける授業予定	血液・造血器機能障害 DIC		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	生体防御機能障害の病態と検査、治療をまとめることができる	テキスト、プリント	事前にテキストを読んでくる。友達同士で問題を出し合いながら学習する。
		各コマにおける授業予定	まとめ、終講試験		
第9回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第10回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第11回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第12回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第13回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第14回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第15回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			

2023 年度 授業計画(シラバス)

学 科	看護学科		科 目 区 分	専門基礎分野	授業の方法	講義
科 目 名	病態治療学Ⅷ		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	16 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	2年生		学期及び曜時限	前期	教室名	2年教室
担 当 教 員	仲谷佳高	実務経験と その関連資格	医師 病院勤務			
《授業科目における学習内容》						
看護の対象である人間の機能障害の成り立ちを学び、その機能障害に対する治療を理解する。 病態治療学Ⅷでは、精神機能障害の病態と検査、治療について学習する。						
《成績評価の方法と基準》						
終講試験						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
精神障害を持つ人の看護(メヂカルフレンド社)						
《授業外における学習方法》						
常に予習復習を心がけてください。文字だけでなく映像でイメージして理解しようと努力してください。						
《履修に当たっての留意点》						
各機能別の病態治療学の講義前に解剖生理学を復習して講義に臨むこと。機能については系統的に理解していき、病体治療学の前に復習しておくこと						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	精神機能障害の病態について説明できる	テキスト	本日の学習テーマの予習 前回の復習	
		各コマにおける授業予定	精神機能障害 精神機能障害の病態のとらえ方			
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	精神機能障害の検査・治療について説明できる	テキスト	本日の学習テーマの予習 前回の復習	
		各コマにおける授業予定	精神機能障害 精神機能障害の検査と治療			
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	精神機能障害の病態と検査・治療について説明できる	テキスト	本日の学習テーマの予習 前回の復習	
		各コマにおける授業予定	精神機能障害 リエゾン精神医学			
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	統合失調症の病態と検査・治療について説明できる	テキスト	本日の学習テーマの予習 前回の復習	
		各コマにおける授業予定	精神機能障害 統合失調症			
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	躁うつ病、神経症、心身症の病態と検査・治療について説明できる	テキスト	本日の学習テーマの予習 前回の復習	
		各コマにおける授業予定	精神機能障害 躁うつ病、神経症、心身症			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	アルコール依存症、薬物依存症について説明できる	テキスト	本日の学習テーマの予習 前回の復習
		各コマにおける授業予定	精神機能障害 アルコール依存症、薬物依存症		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	認知症の病態と検査・治療について説明できる	テキスト	本日の学習テーマの予習 前回の復習
		各コマにおける授業予定	精神機能障害 認知症		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	精神機能障害の病態と検査、治療をまとめることができる	テキスト	本日の学習テーマの予習 前回の復習
		各コマにおける授業予定	まとめ、終講試験		
		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			

2023 年度 授業計画(シラバス)

学 科	看護学科		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	実習
科 目 名	成人看護学実習 I		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	80 (2) 時間(単位)
対 象 学 年	2年次		学期及び曜時限	後期	教室名	臨地実習先
担 当 教 員	各実習施設担当者	実務経験とその関連資格	実習指導教員:看護師として5年以上の経験がある教員 専任教員:看護師として5年以上の経験かつ所定の看護専任教員プログラム終了したもの、もしくは大学にて教育に関する科目4単位以上修得している教員			
《授業科目における学習内容》						
慢性疾患や障害など健康障害を抱えて生活している成人期にある患者とその家族が、その人らしい社会生活が送れるためにセルフマネジメント能力獲得の必要性の理解と、その支援を行うための基礎的能力を習得する。						
《成績評価の方法と基準》						
臨床実習での評価100%						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
実習要項、各自必要と考える教科書						
《授業外における学習方法》						
各実習施設での担当患者の看護実践に必要な学習を実習開始前・実習中に追加学習を行う。病院実習での学びについて所定の様式で実習記録として記載する。						
《履修に当たっての留意点》						
①学習計画を立案、事前学習を行い実習に臨む②学生としての身だしなみ・態度で実習に臨み、健康管理を行う③プライバシーの保持と他者との約束事項を守る④必要な報告・連絡・相談をする⑤知識・技術が取得できるよう積極的に取り組む						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容	
第1回	実習形式	授業を通じての到達目標	事例患者のセルフケア能力確立に向けた指導案の立案や指導のイメージができる。	実習要項 各自必要と考えるテキスト、実習ノート、担当患者、指導者や看護師との関わり	事前学習 実習内容の理解 看護実践に必要な疾患・検査・治療を含めた学習	
		各コマにおける授業予定	事例患者の指導案立案、ロールプレイ 病院オリエンテーション 事前課題の確認 自己・グループの目標発表			
第2回	実習形式	授業を通じての到達目標	担当患者の看護の方向性について表現することができる。	実習要項 各自必要と考えるテキスト、実習ノート、担当患者、指導者や看護師との関わり	実習内容の理解 看護実践に必要な疾患・検査治療を含めた学習	
		各コマにおける授業予定	病棟オリエンテーション・担当患者の情報収集・担当患者の決定			
第3回	実習形式	授業を通じての到達目標	慢性疾患や健康障害を抱えることによる精神的な揺らぎや障害の受容過程について表現できる	実習要項 各自必要と考えるテキスト、実習ノート、担当患者、指導者や看護師との関わり	実習内容の理解 看護実践に必要な疾患・検査治療を含めた学習	
		各コマにおける授業予定	担当患者の看護の実施・追加・修正、情報収集			
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	健康障害を持ちながらも、その人らしく生活できるようにセルフケアマネジメント能力を獲得するための援助方法を考えることができる。	実習要項 各自必要と考えるテキスト、実習ノート、担当患者、指導者や看護師との関わり	実習内容の理解 看護実践に必要な疾患・検査治療を含めた学習	
		各コマにおける授業予定	関連図・看護計画発表 担当患者の看護の実施・追加・修正、情報収集			
第5回	実習形式	授業を通じての到達目標	対象の健康障害のメカニズム(病態)とその程度、関連する因子を理解し、表現することができる	実習要項 各自必要と考えるテキスト、実習ノート、担当患者、指導者や看護師との関わり	実習内容の理解 看護実践に必要な疾患・検査治療を含めた学習	
		各コマにおける授業予定	関連図・看護計画発表 担当患者の看護の実施・追加・修正、情報収集			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	実習形式	授業を通じての到達目標	個人目標・患者目標・グループ目標を元に評価・残された課題を明確にし、発表することができる	実習要項 各自必要と考えるテキスト、実習ノート、担当患者、指導者や看護師との関わり	実習内容の理解 看護実践に必要な疾患・検査治療を含めた学習
		各コマにおける授業予定	中間カンファレンス 個人目標・グループ目標の到達度、担当患者の看護の中間評価		
第7回	実習形式	授業を通じての到達目標	対象や家族に対してセルフケア確立への援助が実施できる①	実習要項 各自必要と考えるテキスト、実習ノート、担当患者、指導者や看護師との関わり	実習内容の理解 看護実践に必要な疾患・検査治療を含めた学習
		各コマにおける授業予定	担当患者の看護の実施・追加・修正、情報収集		
第8回	実習形式	授業を通じての到達目標	対象や家族に対してセルフケア確立への援助が実施できる②	実習要項 各自必要と考えるテキスト、実習ノート、担当患者、指導者や看護師との関わり	実習内容の理解 看護実践に必要な疾患・検査治療を含めた学習
		各コマにおける授業予定	担当患者の看護の実施・追加・修正、情報収集		
第9回	実習形式	授業を通じての到達目標	個人目標・患者目標・グループ目標を元に評価・残された課題を明確にし、発表することができる	実習要項 各自必要と考えるテキスト、実習ノート、担当患者、指導者や看護師との関わり	実習内容の理解 看護実践に必要な疾患・検査治療を含めた学習
		各コマにおける授業予定	最終カンファレンス 個人目標・グループ目標の到達度、担当患者の看護の最終評価		
第10回	実習形式	授業を通じての到達目標	実習での経験を通して、学びをまとめることができる。	実習要項 各自必要と考えるテキスト、実習ノート、担当患者、指導者や看護師との関わり	実習内容の理解 看護実践に必要な疾患・検査治療を含めた学習
		各コマにおける授業予定	慢性疾患や健康障害を持つ患者や家族への関わり、看護師の役割についてまとめ、発表し、自身の視野を広げる		
第11回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第12回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第13回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第14回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第15回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			

2023 年度 授業計画(シラバス)

学 科	看護学科		科 目 区 分	専門基礎分野	授業の方法	講義演習
科 目 名	臨床検査治療論		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	2年生		学期及び曜時限	前期	教室名	2年教室
担 当 教 員	藤原 牧子	実務経験と その関連資格	臨床検査技師として勤務後、大学講師として勤務			
《授業科目における学習内容》						
放射線について簡単に学習し、X線発生装置の基本構成、CR装置、X線TV装置、X線CT装置、核医学検査、放射線治療等について幅広く学習する。また、診療画像機器における、品質・安全管理について学ぶ。「麻酔科学」「周術期管理」「集中治療学」についての基礎知識習得、それらに関連する疾患や病態の理解、看護師の役割を理解する。各種検査項目の臨床的意義を理解するとともに検体採取、患者説明に関わる看護師としての役割について考える。						
《成績評価の方法と基準》						
終講試験						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
臨床放射線医学(医学書院) 臨床検査(医学書院) 臨床外科看護総論(医学書院) 検査値ガイドブック 第2版 (サイオ出版)						
《授業外における学習方法》						
授業終了時に示す課題を実施しておくこと。						
《履修に当たっての留意点》						
配布したプリントを授業で使用するので、忘れず持参すること。授業中、自由に質疑やコメントを歓迎し、積極的な意見交換を行いたい。						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	臨床検査とその役割について理解できる。臨床検査の流れと看護師の役割について理解できる。	テキスト、配布資料		予習: 臨床検査(医学書院)の授業範囲を読んでくる。授業で配るプリントをよく復習しておくこと。
		各コマにおける授業予定	①診療における臨床検査の役割 ②検査の採取法や保存・移送法 ③検査に伴う危険とその防止			
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	尿検査と検査項目の異常値を示す原因について理解できる。	テキスト、配布資料		予習: 臨床検査(医学書院)の授業範囲を読んでくる。授業で配るプリントをよく予習・復習しておくこと。
		各コマにおける授業予定	尿検査とその目的、検査項目			
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	血液学的検査の内容と検査結果の解釈、看護のポイントについて理解できる。	テキスト、配布資料		予習: 臨床検査(医学書院)の授業範囲を読んでくる。授業で配るプリントをよく予習・復習しておくこと。
		各コマにおける授業予定	血球検査、出血と凝固時間、溶結性貧血の検査、骨髄検査			
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	化学検査の意義と注意事項、看護のポイントについて理解できる。	テキスト、配布資料		予習: 臨床検査(医学書院)の授業範囲を読んでくる。授業で配るプリントをよく予習・復習しておくこと。
		各コマにおける授業予定	血清蛋白質と酵素、糖・脂質代謝、胆汁排泄関連物質、窒素化合物、骨代謝、腎機能、水・電解質検査 血液ガス分析			
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	免疫・血清学的検査の意義と、異常にはたらく原因を理解し、看護のポイントについて述べることができる。	テキスト、配布資料		予習: 臨床検査(医学書院)の授業範囲を読んでくる。授業で配るプリントをよく予習・復習しておくこと。
		各コマにおける授業予定	炎症マーカー、液性・細胞性免疫、自己抗体、アレルギー検査、腫瘍マーカー、輸血			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	内分泌疾患とホルモンの検査、検査介助のポイントについて理解できる。	テキスト、配布資料	予習:臨床検査(医学書院)の授業範囲を読んでもくる。授業で配るプリントをよく予習・復習しておくこと。
		各コマにおける授業予定	下垂体前葉・後葉ホルモン、甲状腺ホルモン、甲状腺ホルモン、副甲状腺ホルモン、副腎皮質・髄質ホルモン		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	微生物学的検査と感染症の診断、検査補助時の注意点について理解できる。病理学的検査の意義と看護のポイントについて理解できる。	テキスト、配布資料	予習:臨床検査(医学書院)の授業範囲を読んでもくる。授業で配るプリントをよく予習・復習しておくこと。
		各コマにおける授業予定	感染症の診断と検査、各種感染症・病原体と検査、細胞診、病理組織検査		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	生体検査の意義と看護師の役割について理解することができる。	テキスト、配布資料	予習:臨床検査(医学書院)の授業範囲を読んでもくる。授業で配るプリントをよく予習・復習しておくこと。
		各コマにおける授業予定	生理機能検査、画像検査、内視鏡検査		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	放射能と放射線の違いについて理解し、説明できる。画像診断とその看護について理解できる。	テキスト、配布資料	予習:臨床検査(医学書院)の授業範囲を読んでもくる。授業で配るプリントをよく予習・復習しておくこと。
		各コマにおける授業予定	放射能と放射線 X線診断、CT、MRI、超音波		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	核医学検査と放射線治療、その看護の役割について理解できる。	テキスト、配布資料	予習:臨床検査(医学書院)の授業範囲を読んでもくる。授業で配るプリントをよく予習・復習しておくこと。
		各コマにおける授業予定	核医学検査、放射線治療		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	脊椎麻酔について解剖学的観点やその影響含め、理解できる。	テキスト、配布資料	予習:臨床検査(医学書院)の授業範囲を読んでもくる。授業で配るプリントをよく予習・復習しておくこと。
		各コマにおける授業予定	痛みについて、神経障害性・侵害受容性疼痛、ブロック注射		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	脊椎クモ膜下麻酔の臨床症状と対応について理解できる。	テキスト、配布資料	予習:臨床放射線医学(医学書院)の授業範囲を読んでもくる。授業で配るプリントをよく予習・復習しておくこと。
		各コマにおける授業予定	鎮痛と鎮静、CO2カプノメーター、脊椎クモ膜下麻酔		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	筋弛緩の目的と呼吸補助、心停止の対応と観察について理解できる。	テキスト、配布資料	予習:臨床放射線医学(医学書院)の授業範囲を読んでもくる。授業で配るプリントをよく予習・復習しておくこと。
		各コマにおける授業予定	全身麻酔、筋弛緩薬のメカニズム、人工呼吸、心停止の考え方		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	カテコラミンの作用と使用時の注意点について理解できる。分娩時の痛みによる影響や無痛分娩のリスクと対応について理解できる。	テキスト、配布資料	予習:臨床放射線医学(医学書院)の授業範囲を読んでもくる。授業で配るプリントをよく予習・復習しておくこと。
		各コマにおける授業予定	カテコラミン、産科麻酔・無痛分娩、敗血症の考え方		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	臨床検査・治療において、これまで学んだことをまとめ、記述することができる。	テキスト、配布資料	予習:臨床放射線医学(医学書院)の授業範囲を読んでもくる。よく復習しておくこと。
		各コマにおける授業予定	終講試験 まとめ		

2023 年度 授業計画(シラバス)

学 科	看護学科		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	実習
科 目 名	老年看護学実習 I-B		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	80 (2) 時間(単位)
対 象 学 年	2年次		学期及び曜時限	後期	教室名	臨地実習先
担 当 教 員	各実習施設担当者	実務経験とその関連資格	実習指導教員:看護師として5年以上の経験がある教員 専任教員:看護師として5年以上の経験かつ所定の看護専任教員プログラム終了したもの、もしくは大学にて教育に関する科目4単位以上修得している教員			
《授業科目における学習内容》						
<p>①受け持ち患者の健康段階や日常生活自立度に応じて、安全・安楽・自立に向けた援助が実施できる。</p> <p>②受け持ち患者とのかかわりや日常生活援助を通して、身体面・心理面・社会面を把握し、看護問題を抽出する。</p>						
《成績評価の方法と基準》						
評価表にて、臨地実習指導者および担当教員で評価し、100点満点中60点以上で合格とする。						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
メディカ出版:高齢者の健康と障害、高齢者看護の実践						
《授業外における学習方法》						
実習要項の学習課題やルーブリック評価表を参照し、対象の状況に合わせて実習事前学習および追加学習を行う。						
《履修に当たっての留意点》						
事前学習・追加学習は必ず行うこと。						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容	
第1回	実習形式	授業を通じての到達目標	受け持ち患者の看護に必要な情報を意図的に収集できる	受け持ち患者	実習要項参照	
		各コマにおける授業予定	①病院および病棟オリエンテーション ②受け持ち患者とのコミュニケーションおよび情報収集			
第2回	実習形式	授業を通じての到達目標	受け持ち患者の看護に必要な観察項目をあげることができる	受け持ち患者	実習要項参照	
		各コマにおける授業予定	①受け持ち患者とのコミュニケーション ②受け持ち患者の検温および日常生活援助の見学(実施)			
第3回	実習形式	授業を通じての到達目標	受け持ち患者の看護に必要な観察ができる	受け持ち患者	実習要項参照	
		各コマにおける授業予定	①受け持ち患者とのコミュニケーション ②受け持ち患者の検温および日常生活援助の実施・評価			
第4回	実習形式	授業を通じての到達目標	受け持ち患者のフィジカルアセスメントができる	受け持ち患者	実習要項参照	
		各コマにおける授業予定	①受け持ち患者とのコミュニケーション ②受け持ち患者の検温および日常生活援助の実施・評価			
第5回	実習形式	授業を通じての到達目標	受け持ち患者に必要な援助が根拠とともに述べられる	受け持ち患者	実習要項参照	
		各コマにおける授業予定	①受け持ち患者とのコミュニケーション ②受け持ち患者の検温および日常生活援助の実施・評価			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	実習形式	授業を通じての到達目標	受け持ち患者の安全・安楽・自立に向けた援助が述べられる	受け持ち患者	実習要項参照
		各コマにおける授業予定	①受け持ち患者とのコミュニケーション ②受け持ち患者の検温および日常生活援助の実施・評価		
第7回	実習形式	授業を通じての到達目標	受け持ち患者の安全・安楽・自立に向けた援助が実施できる	受け持ち患者	実習要項参照
		各コマにおける授業予定	①受け持ち患者とのコミュニケーション ②受け持ち患者の検温および日常生活援助の実施・評価		
第8回	実習形式	授業を通じての到達目標	受け持ち患者の安全・安楽・自立に向けた援助が実施できる	受け持ち患者	実習要項参照
		各コマにおける授業予定	①受け持ち患者とのコミュニケーション ②受け持ち患者の検温および日常生活援助の実施・評価		
第9回	実習形式	授業を通じての到達目標	受け持ち患者の看護問題を根拠とともに述べる	受け持ち患者	実習要項参照
		各コマにおける授業予定	①受け持ち患者とのコミュニケーション ②受け持ち患者の検温および日常生活援助の実施・評価		
第10回	実習形式	授業を通じての到達目標	実習を通して培った老年観をその根拠とともに述べる	老年看護学テキスト他	実習要項参照
		各コマにおける授業予定	①受け持ち患者とのコミュニケーション、援助のリフレクション ②老年観とその根拠となった事象について文章で表現する		

2023 年度 授業計画(シラバス)

学 科	看護学科		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	実習
科 目 名	老年看護学実習 I-A		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	40 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	2年次		学期及び曜時限	前期	教室名	臨地実習先
担 当 教 員	担当教員及び各実習 施設指導者	実務経験と その関連資格	担当教員:看護師、看護教育に従事 指導者:病院勤務			
《授業科目における学習内容》						
<p>①受け持ち患者のバイタルサイン測定を実施し、フィジカルアセスメントをする</p> <p>②受け持ち患者とのコミュニケーションや日常生活援助を通して、療養生活や精神・心理面、社会面の情報を得し、必要な支援について考える。</p>						
《成績評価の方法と基準》						
評価表にて、臨地実習指導者および担当教員で評価し、100点満点中60点以上で合格とする。						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
メディカ出版:高齢者の健康と障害、高齢者看護の実践						
《授業外における学習方法》						
実習要項の学習課題やルーブリック評価表を参照し、対象の状況に合わせて実習事前学習および追加学習を行う。						
《履修に当たっての留意点》						
事前学習・追加学習は必ず行うこと。						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	実習形式	授業を通じての到達目標	受け持ち患者の看護に必要な情報を述べるができる	受け持ち患者	実習要項参照	
		各コマにおける授業予定	①病院および病棟オリエンテーション ②受け持ち患者とのコミュニケーションおよび情報収集			
第2回	実習形式	授業を通じての到達目標	受け持ち患者の看護に必要な情報を意図的に収集できる	受け持ち患者	実習要項参照	
		各コマにおける授業予定	①受け持ち患者の療養環境を整える ②受け持ち患者とのコミュニケーションおよび情報収集			
第3回	実習形式	授業を通じての到達目標	受け持ち患者のフィジカルアセスメントに必要な観察ができる	受け持ち患者	実習要項参照	
		各コマにおける授業予定	①受け持ち患者の療養環境を整える ②受け持ち患者の検温および日常生活援助の見学(実施)			
第4回	実習形式	授業を通じての到達目標	受け持ち患者のフィジカルアセスメントができる	受け持ち患者	実習要項参照	
		各コマにおける授業予定	①受け持ち患者の療養環境を整える ②受け持ち患者の検温および日常生活援助の実施・評価			
第5回	実習形式	授業を通じての到達目標	受け持ち患者の状態のアセスメントから、必要な支援について述べるができる	受け持ち患者	実習要項参照	
		各コマにおける授業予定	①受け持ち患者の療養環境を整える ②受け持ち患者の検温および日常生活援助の実施・評価			

2023 年度 授業計画(シラバス)

学 科	看護学科		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	実習
科 目 名	老年看護学実習Ⅱ		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	80 (2) 時間(単位)
対 象 学 年	2年次		学期及び曜時限	後期	教室名	臨地実習先
担 当 教 員	各実習施設担当者	実務経験とその関連資格	実習指導教員:看護師として5年以上の経験がある教員 専任教員:看護師として5年以上の経験かつ所定の看護専任教員プログラム終了したもの、もしくは大学にて教育に関する科目4単位以上修得している教員			
《授業科目における学習内容》						
健康障害をもつ老年期の患者を受け持ち、その患者の看護問題に対する看護計画の立案・実施・評価ができる						
《成績評価の方法と基準》						
評価表にて、臨地実習指導者および担当教員で評価し、100点満点中60点以上で合格とする。						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
メディカ出版:高齢者の健康と障害、高齢者看護の実践						
《授業外における学習方法》						
実習要項の学習課題やルーブリック評価表を参照し、対象の状況に合わせて実習事前学習および追加学習を行う。						
《履修に当たっての留意点》						
事前学習・追加学習は必ず行うこと。						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容	
第1回	実習形式	授業を通じての到達目標	1. 病棟の特徴・機能を述べるができる 2. 受け持ち患者の看護に必要な情報を意図的に収集する	受け持ち患者	実習要項参照	
		各コマにおける授業予定	①病棟オリエンテーション ②受け持ち患者とのコミュニケーションおよび他の情報源からの情報収集			
第2回	実習形式	授業を通じての到達目標	受け持ち患者の看護に必要な観察およびフィジカルアセスメントができる	受け持ち患者	実習要項参照	
		各コマにおける授業予定	①受け持ち患者とのコミュニケーション・情報収集 ②受け持ち患者の検温および日常生活援助の見学(実施)			
第3回	実習形式	授業を通じての到達目標	受け持ち患者に必要な日常生活援助が述べられる。	受け持ち患者	実習要項参照	
		各コマにおける授業予定	①受け持ち患者とのコミュニケーション・情報収集 ②受け持ち患者の検温および日常生活援助の実施(見学)とリフレクション			
第4回	実習形式	授業を通じての到達目標	受け持ち患者の全体像が述べられる	受け持ち患者	実習要項参照	
		各コマにおける授業予定	①受け持ち患者の状態のアセスメント ②自己の看護のリフレクション③受け持ち患者の全体像を因子間の関連とともに表現			
第5回	実習形式	授業を通じての到達目標	受け持ち患者の看護上の問題と看護の方向性が述べられる	受け持ち患者	実習要項参照	
		各コマにおける授業予定	①受け持ち患者の状態のアセスメント ②自己の看護のリフレクション③受け持ち患者の看護問題の抽出			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	実習形式	授業を通じての到達目標	受け持ち患者の看護計画を具体的に表現できる	受け持ち患者	実習要項参照
	各コマにおける授業予定	①受け持ち患者の状態のアセスメント ②自己の看護のリフレクション③看護計画の具体化			
第7回	実習形式	授業を通じての到達目標	アセスメントおよびリフレクションから、受け持ち患者の看護計画を追加・修正できる	受け持ち患者	実習要項参照
	各コマにおける授業予定	①受け持ち患者の状態のアセスメント ②自己の看護のリフレクション③看護計画の追加・修正			
第8回	実習形式	授業を通じての到達目標	アセスメントおよびリフレクションから、受け持ち患者の看護計画を追加・修正できる	受け持ち患者	実習要項参照
	各コマにおける授業予定	①受け持ち患者の状態のアセスメント ②自己の看護のリフレクション③看護計画の追加・修正			
第9回	実習形式	授業を通じての到達目標	受け持ち患者への看護について評価し、今後の課題を述べることができる	受け持ち患者	実習要項参照
	各コマにおける授業予定	①受け持ち患者への看護について、患者の状態および自己の言動から評価する ②今後(後半)の実習に向けて課題をあげる			
第10回	実習形式	授業を通じての到達目標	実習を通して培った老年看護観について、その理由とともに述べられる	受け持ち患者	実習要項参照
	各コマにおける授業予定	①受け持ち患者に対する看護について参考文献や資料を用いて評価し、文章で表現する ②老年観とその理由を文章で表現する			